

# 日韓市民ネットワーク・なごや

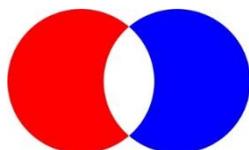
한일 시민 네트워크 · 나고야

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

会報 No. 66  
2013- 8- 9

発行者：後藤 和晃  
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238  
TEL/FAX 0587-56-6788

朱色



紺青

## 目次

P 1 事務局通信  
P 2 お知らせ  
P 6 会員の広場

統括幹事：後藤和晃  
事務局  
会員 2名

## 事務局通信

사무국 통신

事務局統括幹事

後藤和晃

## 日韓交流の季節！ あなたもミニミニ交流を！！

私たちの会は、例年の夏に韓国から大学生交流団を迎えてきました。しかし今年は予定していた高麗大学教育学部からの交流団が引率教授の都合などで来られなくなったので、会を挙げての交流行事はありません。

その代わりとして事務局からは、この夏から秋にかけ会員の皆さんがミニミニ日韓交流にトライされるよう提案したいのです。交流するお相手としては、身近にいる留学生や商社などの駐在員、在日の知人・友人など、いろいろ考えられるのではないのでしょうか。こちら側が一人では気が重いと思われる場合は、親しい会員を誘ってミニ交流を実現して頂ければ、と思います。

さて「論より実行！」と事務局の後藤がミニ交流を2回行ないました。参考までに紹介しておきましょう。1回目は会の顧問の李尚勲さん(大宇ジャパン名古屋・課長)のご家族3人を我が家にまねいてスイカ採りなどを楽しんでもらったことです。李さん一家が訪れた日は、熱中症患者が続発しそうな暑い日でした。しかし、その暑さをものともせず、小学生のホマレちゃんらがスイカや黄ウリ・落ウリの他、トマト・ナス・ピーマン・ゴーヤーなどの収穫に大活躍してくれました。

もう1回は、会員の李純子さんの韓国料理店(一宮市佐野町)で、会員や友人ら7人でミニミニ納涼会を開いたことです。この納涼会では飛騨牛の焼肉が絶品で美味でしたが、もう一点特記事項がありました。それはアメリカから一時、帰国中の在日出身の女性から大変嬉しい話を聞くことが出来たことです。彼女の話は次のようなものでした。「私は、たびたび外国に滞在し、今はアメリカに住んでいます。外国で



畑での李さん一家と後藤氏

暮してみると、本当に日本や日本人のよさ、優しさが分かります。私にとって世界の中で一番、好きな国は日本ですね。」

アジアで日本叩きの報道が相次いでいる今、在日出身の女性から、こうした証言を聞いて心を癒される思いがした納涼会でした。

上に紹介したようなミニミニ交流なら、皆さんもきっと気楽にトライして頂けると思います。

一方で、韓国からの観光客とリゾート地や街角で即席交流をすることも考えられるのではないのでしょうか？ 新聞やテレビの報道を見ていると、日韓の交流は国家レベルから市民レベルに至るまで、冷戦状態にまで落ち込んでいるように錯覚しそうです。しかし、

現実には日本を訪れる韓国人観光客は今年に入って前年比 38%増と大幅に増えてきており、名古屋駅周辺で韓国人観光客のグループと思われる集団を見かけることも多くなりました。相手は観光客ですから長話をする時間はないでしょうが、多少でも言葉を交わしていただくといいでしょう。日本人の口から出る

「アンニョンハセヨ！」の一言が、きっと韓国人たちの日本人観に良い影響をもたらすことでしょう。

アジアの東の果てに住む韓国人と日本人は、今もこの先も“永遠の同伴者”です。ぜひ、ミニミニ交流にトライしてください。

## お知らせ

### 통지



## 1. 古代出雲・伯耆紀行のご案内

～ 11/18(月)～20(水)～

私たちの会は日韓交流の歴史を深く学ぶため、過去15年間、日本・韓国・中国東北部(旧満州)にかけ、テーマ紀行を数多く行ってきました。今回は11月に日韓交流史の日本側の原点と思われる出雲・伯耆(ほうき)地方に、弥生時代から飛鳥時代にかけての多彩な遺跡、史跡を訪ねます。今回の紀行では、今は人口も少なく、見るべき産業も少ない島根・鳥取地方ですが、古代においては渡来の波に洗われる中、早々と当時の先進技術を吸収し、出雲王国と呼ばれるにふさわしい政治力・文化力を確立して、広く、九州・中国・関西・中部の各地にまで強い影響を与えていたことを学びます。

今回の紀行に同行して頂くのは、去年、中国東北部(旧満州)で高句麗、渤海の遺跡を巡る8日間の旅でも同行・解説をお願いした考古学界の重鎮、西谷正先生(前日本考古学界会長・海の道宗像館館長)です。また、日本神話や出雲風土記などにも通じている日比谷高校の武井一さんにも解説の一端を担って頂きます。3日間の旅行スケジュールは右記の通りです。時間を効率的に使うため、初日の11/18(月)は解説者、参加者ともども新幹線の岡山駅を經由して鳥取駅で集合、以後は3日間、バスで数多くの遺跡を廻ります。

## 出雲・伯耆紀行の参加者を募集します

これまで日韓交流史紀行に参加された皆さんには、参加の是非をお訊ねするハガキと書面を同封します。書面に日程・参加費などを載せておきますので、ぜひご参加頂くよう、お願いします。

参加人数は先生方を含め、25人～30人程度が適当ではないかと考えています。なお、日韓交流史紀行に参加実績のない方で参加を希望される方は、事務局・後藤(0587-56-6788)まで、お問い合わせください。

出雲大社



本殿



御仮殿

## 紀行スケジュール

11/18 (月)	名古屋駅 07:30 のぞみ99号	岡山駅 09:06 / 09:14 スーパーいなば3号	鳥取駅 11:04 着後、専用バス	※1 青谷上寺地遺跡 12:00 ~ 13:00
	※2 妻木晩田遺跡 14:00 ~ 15:00	※3 上淀廃寺・白鳳の丘展示館 15:10 ~ 16:10	※4 八雲立つ風土記の丘	※5 神原神社
11/19 (火)	ホテル	※6 荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡	※7 西谷墳墓群	※8 出雲大社(昼食・参拝)
	※9 古代出雲歴史博物館(鑑賞)	長浜神社	玉造温泉(泊) 17:00 頃	
11/20 (水)	ホテル	※10 八重垣神社	※11 熊野大社	※12 田和山古墳
	※13 松江城(昼食・見学)	松江駅	米子西 IC	一宮 IC
				名古屋駅 19:30 頃

## ※ 見学する主な遺跡・史跡

### 1. あおや かみじち 青谷上寺地遺跡

弥生に係わる情報の全てが、ここに来ると分かるという一名「弥生の博物館」。大量の土器や木器をはじめ青銅器、鉄器、人骨や1800年前の脳みそまでが出土。人骨の中には銅の矢じりが突き刺さったものや、刀痕を残すものも多く、弥生時代が平穏だった縄文時代とは異なり、斗いの時代だったことを生々しく証言してくれる。



銅の矢じりが打ち込まれた人骨

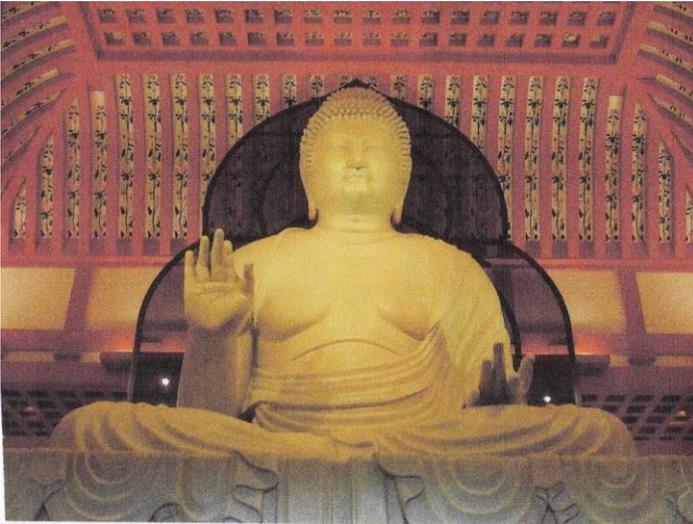
鋭い刃物で切りつけられた胸椎

### 2. むきばんだ 妻木晩田遺跡

国内最大級の弥生集落遺跡(156ヘクタール)で有名な吉野ヶ里遺跡の5倍もの広さ。その中に四隅突出型古墳が点在する。

### 3. 上淀廃寺・白鳳の丘展示館 \* 絶対見逃せない展示

7世紀後半(飛鳥時代)に建立された古代寺院跡から、国内最古級とされる仏教壁画の破片(数千点)や塑像が一括出土。3塔1金堂という類例のない伽藍配置は、かつて私たちが韓国の益山で見た百濟時代の弥勒寺の3塔3金堂の配置に影響を受けたものか? 現在、廃寺のすぐ近くに金堂が復元され、その内部には華麗な仏教壁画や塑像が当時の姿のままに再現されており、絶対見逃せない展示だ。



上淀廃寺の復元した仏像



復元壁画

### 4. 八雲立つ風土記の丘

島根県有数の古墳地帯を公園化、岡田山1号墳は数多くの副葬品が出土、特に「額田部臣」の銘文入りの太刀は、出雲風土記に記された人物の存在を証言して貴重。

### 5. 神原神社古墳

竪穴式石槨を持つ出雲地方、最古級の方墳(4世紀?) ここから出土した副葬品の中に卑弥呼が魏の皇帝から貰ったという景初3年銘の三角縁神獸鏡があり、出雲の豪族が卑弥呼と親しかったことがうかがわれる

### 6. 荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡(弥生遺跡)

およそ30年前、荒神谷から銅剣358本、銅鐸6個、銅矛16本が相次いで出土した。銅剣の数は、それまで全国各地で出土した総本数を上回り、弥生時代の出雲が特記すべき立場にあつたことを認めるべきだ、との声もあがった。出土物は平成10年、全て国宝に指定された。

平成8年、加茂岩倉から39個もの銅鐸が一気に出土し、荒神谷に続く出雲の青銅器大量埋納として全国の考古学ファンから熱視線を浴びた。



荒神谷遺跡の銅剣



西谷古墳3号墳の模型

## 7. 西谷古墳群（3号墳）

弥生時代、後期に造られた「王墓」で突出部を含めた規模は 55m×40m、高さ 4.5m。吉備 北陸系の土器から中国産の水銀床、大陸産のガラス玉、鉄剣など大量に出土。出雲の王が地の利を生かして、朝鮮半島や大陸との交易を行ない大きな権力を得ていたことがうかがわれる。

## 8. 出雲大社・古代出雲歴史博物館

大社 1744 年に再建の本殿は大国主命を祀る日本で最も古い神社建築の形式である大社造りで、高さが 24m 国宝に指定されている。平安時代には 48m の高さがあったと伝えられていたが、13 年前から翌年にかけて、直径 1.35m のスギ材 3 本を合わせて 1 本とした柱根が 3ヶ所で出土、伝承を正しいと考える考古学者、建築家も少なくない。

古代出雲歴史博物館は出雲大社を中心とした古代出雲の展示を行なっている。荒神谷遺跡、加茂岩倉遺跡出土の大量の銅剣、銅鐸、銅矛も全て公開。大社前から出土した巨大柱根（宇豆柱）も見ることができる。

## 9. 玉造史跡公園

玉造温泉の丘陵地は、日本最古の玉造工場の地といわれ、玉造部の工人たちが勾玉などを大量に生産していた。玉造資料館、工房跡保存施設、復元家屋などもある史跡公園となっている。

## 10. 八重垣神社

素盞鳴尊と稲田姫を祀る。姫神を描いた平安末期の板絵は神社の障壁画としては最古のものとされ重文。

## 11. 熊野大社

くまのおおやしる

出雲風土記が大社と崇めて記しているのは杵築大社（今の出雲大社）と、この熊野大社だけ。古代の祭神はクマヌカムロ（熊野加武呂命）だったが、平安中期ころからは素盞鳴尊命が主祭神となった。かつては出雲大社より社格が高かったとされ、出雲大社の 10 月の鑽火祭に際しては、火を起す、ひきり杵とひきり臼を熊野大社が貸し与える儀式が残っている。

## 13. 松江城

初代の城主は秀吉から愛された尾張の武将、堀尾吉晴（丹羽郡大口町出身）。彼が慶長 16 年（1611 年）に築いた松江城は 5 層 6 階の天守閣を中心に 6 基の櫓を配置して実戦を想定した城。

徳川との戦は避けられずと考えた堀尾は、長期の籠城戦にも耐えられるよう、天守閣の中央に巨大な井戸（現存）も造っていた。



宍動湖の夕景





## 회원마당 会員の広場

こちらでは会員の皆様の声を載せております。皆様から、「会員のみんなに伝えたい!」「韓国のここが好き!」は勿論、「こんな旅行して来た」等、日々の暮らしの様子などの皆さんの声を是非、お送り下さい。

### 東北被災地でのボランティア

会員 伊藤義郎

「東北の被災地へボランティアに行ってみませんか。」町内の老人クラブの会合で若い住職から話が出た。「年配の方でも出来る活動があります。問題は現地に行くのに18時間夜通し走ります。帰りも夜走るからそれがきついかも。現地ではお寺に泊ります。」と。

結局、参加者は4人。リーダーの若い住職、70代のお茶の先生、同世代のお弟子さんと八十路の小生。気心知れた仲間だ。18日(火)の夕方、赤い毛氈・茶釜など茶道具一式をワンボックスカーに積んで出発。住職とお茶の先生が交替で運転。早朝、岩手県に入る。柳田国男の「遠野物語」の遠野を経て釜石市に入る。町の様子が少し変わってきた。電柱に「津波注意」の標識が目につく。道路沿いには家のコンクリートの区画だけが残り、夏草が茂っている。

更に峠を越え、下り始めると「これから先、津波浸水地域」の標識。なんとなく緊張する。泊る予定になっている山田町の無住の寺に着く。19日(水)午前11時頃。出発してから17時間、車の走行距離は982kmになっていた。庫裡でおにぎりの昼食。本堂にご挨拶を兼ねてお参りすると、ご本尊の場所に阿弥陀様が2体。1体はどこかのお寺から避難されてこられたのだろうか。阿弥陀様は静かに下の町の方を見ておられるだけ。

寺は、住宅地域より高い所にあり、山田町が地震と津波のあと大火災となり、津波で流された人を含め750人以上亡くなったけれど難をのがれた。寺の脇の石段を登った所に神社がある。たまたま、宮司さんがおられ「あの日、津波や火災で町の人がこちらに逃げてこられました。火災がこの山林に移るかも知れないと、更に山づたいに逃げました。夜中の1時か2時



お寺からみた山田町の津波・焼跡 夏草が茂っている

頃で寒くて大変でした。亡くなった人の中には、一旦、高台へ避難したものの、津波はまだ来ないと荷物を家に取りに戻って行って津波にさらわれてしまった人も沢山いました。」などと話してくれた。

石段をおりた所に「津浪記念」と彫られた大きな石碑があった。それには、80年前の昭和8年3月に起きた地震と津波を記憶にとどめるためのもので、碑の裏側に、津波が来たら遠くへ逃げるのでなく高い所へ逃げよなどと簡条書きがしてあった。この教訓は活かされたのだろうか。

お風呂と夕食は車で30分くらいの宮古市へ。田舎道のようにうす暗い被災地の町跡を通って寺に戻る。本堂には青森県と秋田県からの僧職のボランティアが三、四人泊るとのこと。彼らはこの夜、仮設住宅の人達に一晚だけの「居酒屋」を開いているとか。我々は持ってきた寝袋に入って庫裡で寝た。梅雨寒とでも云うのか寒い。

翌朝、近くにおいしいラーメン屋さんがあると散歩もかねて出かけた。被災された家の区画脇に、草花を植えている女性がいた。きっと、この亡き家に色々な思いを託して植えておられるのだろう。ご家族は大丈夫だったのだろうか。話しかける勇気もなかった。



岩手県 大槌町 役場跡

今回の一番の目的、お抹茶サービスをする大槌町に向う。途中、大槌町の役場跡に立寄る。役場の職員や町民などが屋上に避難したものの、津波で50人が今も行方不明になっているとの事。役場の前には仏像と供花で祭壇が設けてあった。役場の近くの土台の上に小さな祠があり中に標札が。よくみると寿司屋さんの屋号の札。ご主人か、ご家族が自分の店の屋号を位牌のようにして祭っておられるのだろう。

街道沿いに「おらが大榎復興食堂」の看板が目にとまり、ここで昼食。そして高台にある安渡小学校へ。今は校庭に沢山の仮設住宅が並んでいて、校舎は公民館になっている。



小学校跡での お抹茶 サービス

赤い毛氈を敷き、お香を焚いてお茶席の雰囲気を作る。仮設のご婦人達が三三五五やってくる。「あんた、お茶会だから振り袖を着てきなさいと云ったでしょ。」と冗談。雰囲気が明るくなった。用意したお茶菓子の干菓子を「もう一つ頂いていい？」と珍しそうに選んでいる人も。きれいだからとカメラにおさめている人も。

そんな中、「私は主人も息子もこの震災で亡くしてしまった。今日は孫を連れてきました。」と自分から話す人もいる。お年寄りが「こう云う所へ来て冗談を云って笑ったりしていると何もかも忘れるけれど、仮設に帰って寝る時は、あれこれ思い出して涙が出てくる。」と本音も。中には「何か一言書いて。」と頼まれたりもした。 管理人さんが「歌やお笑いの人はよく来てくれるけれど、お抹茶は初めてです。」と云っておられた。ここを後にする時、お年寄り数人がいつまでも我々の車に手を振ってくれていた。

近くに母子家庭の子とか事情があって預けられている「こども夢ハウス」がある。このすぐ下まで津波が来たとの事。ここで細長い風船を使ってしばし遊んだ。帰る時は最初、警戒心丸出しの女の子も帰り際に笑顔で握手してくれたり、子供達が車を追いかけるようにしながら手を振って送ってくれた姿が、これを書いている今も目に浮かんでくる。

参考までに、リーダーの若い住職は震災後、数回人形劇を子供にみせるため、あちこちの被災地に行っている。そして、この「こども夢ハウス」の共同経営者の一人になっている「納棺師」のSさんを知った。彼女は津波で亡くなり砂だらけになった幼ない子の遺体をきれいに拭いて納棺したとの事で、今、被災地・被災者支援で全国を回っておられるとの事。

帰路は往路に通った首都圏を通らず、新潟県など日本海に出て21日(木)朝、無事に戻った。帰路の時間は約12時間。全走行距離は2067kmになっていた。



ボランティアと「こども夢ハウス」の人達(右端 伊藤義郎氏)

15 ○ 歌壇俳壇市 2013年(平成25年)7月21日

# 中日俳壇

小面のもの言ひたげな梅雨の部屋  
(岐阜・垂井) 服部 綾美  
 土管坂日傘傾けすれ違ふ  
(西尾市) 金子 恵美  
 校庭に仮設住宅夏つばめ  
(津島市) 伊藤 義郎  
 病室の母と過ぐせり桜桃忌  
(名古屋市) 持永 浩  
 蠟燭が足元照らす茅の輪かな  
(名古屋市) 浅井 香代

【総評】小面の「じつとり」としてうす暗い梅雨の部屋。「もの言ひたげな」小面が不気味。土管坂「窯の町常滑の土管坂であらう。「日傘傾けすれ違ふ」が具体的に、日盛りの土管坂が目につかぶ。校庭に「今も仮設住宅での生活を余儀なくされている人たちを見舞ったのであらう。飛び交う夏燕が眩しい。」

伊藤義郎

夏草やここも町あと津波跡  
 校庭に仮設住宅夏つばめ

梅雨寒の無住の寺の雑魚寝かな

※ 7/21 付 中日新聞・俳壇に見事入選、おめでとうございます。⇒

私は今、フィリピンで韓国と日本とフィリピンに係わる仕事をしています。最近ではNHKでも取り上げられたので、ご存じの方も多いかもかもしれませんが、英語の勉強のためにフィリピンに行く日本人が急増しています。私もその中の一人でした。

フィリピンは世界で3番目に英語をしゃべる人が多く、公用語も英語です。そのため、欧米への留学より費用を安く抑えられるフィリピンに英語留学する人が増えています。最初の予定では6カ月英語の勉強してTOEICで良い点数を取り、日本で再就職をしようと考えていました。でもフィリピンについて1週間での会社から声をかけられて、4カ月の勉強の後、就職することになりました。さて、なぜフィリピンで？韓国も関係あるのか？疑問に思うかもしれません。

現在、フィリピンにある語学学校約300校のうちの9割以上は韓国人経営者の学校です。韓国では10年以上前からフィリピンでの英語の学習はあたりまえでした。そのため、ほとんどの学校は今も韓国人経営者です。そして日本人にこのフィリピンの英語学校を紹介する仕事が、今の私の仕事です。韓国人の学校経営者とコンタクトを取るには韓国語が手取り早く、そして日本人と相談するには、やはり日本人の方が安心感を与えられるということで採用され、毎日韓国語と日本語と少しの英語を使って生活しながら仕事をしています。私の同僚はベトナム人や日本人、韓国人、フィリピン人、ちょっと前までロシア人、そしてこれから台湾人も来る、とてもグローバルな職場です。

私は韓国語から日本語への翻訳や留学の相談、HPの更新に追われる毎日です。最近ではシニア世代で、ゆっくり休養も兼ねて勉強される方も多く、そんな時ふと日韓市民ネットの事を思い出して、6カ月で帰って頑張りますと言ったのに帰れなくなってしまったことを申し訳なく思います。いつか帰って、またお手伝いさせていただきたいと思っています。ここからでもできることがあればお手伝いします。形は違いますが私はここで日本と韓国とフィリピンの交流に携わる仕事ができ、とても充実した生活をしています。



私がフィリピンに残ることにしたのは、私が通った学校の先生たちとの出会いが大きかったです。日本にいた時は、フィリピンといえばフィリピンパブのお姉さんや、治安が悪いとかそんなイメージばかりでした。でもそれは大きな間違いでした。確かにマニラやセブの一部の地域はとても危険で、最近でも語学学校の生徒が銃で撃たれてしまう事もありました。でも私の行ったバコロドという田舎ではマニラやセブに比べ安全で、貧困の中でも明るく必死に生活する街の人や、いつもフレンドリーで楽しい先生たちと知り合うことができ、もう少しフィリピンにいても面白いと思ってフィリピンに残っています。もちろん一緒に勉強した台湾人や韓国人も、私のフィリピン生活の中で外せない大切な仲間、私のフィリピン生活を楽しくしてくれました。

初めはシャイでも親しくなれば明るく楽しいフィリピン人達の不思議な魅力に、今はとりつかれているのかもしれません。青い空と青い海と明るいフィリピン人たちと、ギター片手にみんなで歌って踊って飲んで、授業後も毎日食べに出かけたりして、もっとフィリピンの事を知りたいと思ったのと、韓国語を使った仕事ができるチャンスなのでここに残っています。もしフィリピンに来ることがあれば、是非夜の街だけでなく、普通の街の人と接してみてください。フィリピンはきっと危ない場所ではないということが実感できると思います。

